



めたせこいあ

島根県立吉賀高等学校 〒699-5522 鹿足郡吉賀町七日市 937

電話 (0856)78-0029 FAX (0856)78-0742

HP アドレス <http://www.shimanet.ed.jp/yoshika/>

至 創 努 校
誠 造 力 訓

魅力化のボール

吉賀高等学校 校長 齋藤雅典

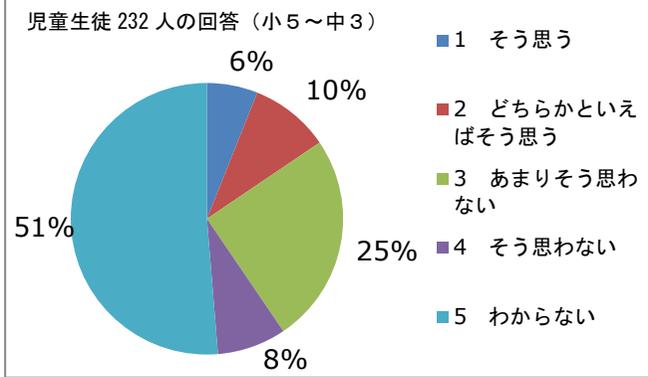
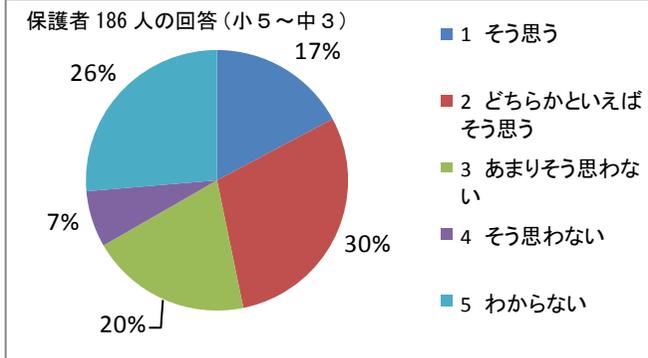
1月から2月にかけて町内の小中学校にお願いしてアンケートを実施しています。「以前と比べて、吉賀高校の魅力は高まったと思いますか?」という問いの回答は、次のようでした。

グラフから、保護者の方の47%が肯定的な回答がされていることが分かります。理由に挙げておられたのは、多い順に、学力向上(「学力向上と進路指導の取り組みにより結果が出てきている」など)、町の支援に関すること(「バス通学の補助や部活動の終了時間に合わせてデマンドバスが運行されるようになり、親としては安心感がある」など)、地域と連携した活動が多いこと(「地域のイベント等に参加している時の生徒のイキイキした感じが良い」など)です。一方、子どもたちの評価は右のグラフの通りです。半数以上が「わからない」と答えており、肯定的回答は16%に止まっています。

先日、地域のある方に「吉賀高校の魅力は何か?」と尋ねられました。小さい学校だから一人ひとりの役割が大きい、そのことにより成長のチャンスに恵まれている、地域活動の中で自己肯定感が育ちやすい、生徒同士が幼ない時からの知り合いである、都会の人にとっては豊かな自然の中の学校生活も魅力だろう、などと私は話しました。

その時、ある保護者の方が、一人ひとりを見てその子に応じて力を伸ばし、進路希望を叶えてくれることだと言われました。吉賀高校は一学年30人前後の学校です。大きな学校では「今年の学年は上位層が薄い」などと集団を単位として指導することが多いのに対して、吉賀高校では「〇〇君は最近伸びている」というように分析の単位は個人です。確かに生徒一人ひとりを見ているといえ、希望する個人に多くの教員が手をかけることが出来て、力を大きく伸ばす生徒も現れます。しかし、十分とはいえない面もあり、大きくアピールできるほどの魅力になりきれていないと私は思います。

魅力化・活性化事業が目指すことは、高校の「存続」ではなく「魅力化」であると言われます。町内の中学生の多くが、心から吉賀高校に進学したいと思うようになるためには、吉賀高校の生徒や教員が、自信を持って学校の魅力を語るようになってはなりません。そして、そのための第一歩は、吉賀高校を進学先に選んで入学してくれた子供達の期待に応えることです。事業が進む中で、町や地域の支援により学習環境はすいぶん改善しました。今、魅力化のボールは吉賀高校に投げられているのだと自覚しています。



卒業式

3月3日に卒業式が実施されました。卒業式は、高校3年間で成長した自分の姿を披露する最後の大舞台です。32名の卒業生が厳粛な雰囲気の中、式に参加しました。また、式終了後には、これまでの行事で撮った写真のスライド上映が行われました。3年生と在校生が共に過ごした日々を懐かしく思い出しました。



卒業証書授与の様子。一人一人に直接授与されました。



宗本道明君による卒業生答辞。想いが伝わってくる立派な答辞でした。



最後の卒業生退場。皆、満足した様子で会場を後にしました。

キャリア教育発表会

3月9日にキャリア教育成果発表会が実施されました。吉賀高校では、1年次に「聞き書き」、2年次に「アントレ」と名づけられたキャリア教育活動を実践しています。この活動には、地域の方々のご協力が不可欠であり、実際に多くの方々のご協力のもとに大きな成果を得ています。今回のイベントはその成果を地域の方々、中学生に見てもらうことを目的として実施しました。会場は満員となり、充実した発表会となりました。



多くの来場者がありました。発表の場として最高のものとなりました。



これまでの活動を一生懸命伝えました。発表の練習も積み重ねました。



発表者への質問。発表する側と聞く側でしっかり会話が出来る発表会でした。

わすれない3・11

3月11日に実施されたイベントです。町内の有志の方が企画したイベントで、吉賀高校の地域クラブもイベントに参加しました。震災の年に始めた活動で今年で5回目となります。吉賀高校に会場を移してからは3回目になりますが、とても多くの参加者があり、有意義なイベントになりました。有志の皆様にご協力いただき、コーラス団「まきのきコーラス」の皆様と吉高音楽部との合同合唱などがあり、キャンドルに灯された火と共に幻想的なイベントとなりました。



とても美味しい豚汁でした。多くの方がおかわりをしていました。



キャンドルに火を灯す様子。灯された火はゆらゆらと幻想的な色合いをはなっていました。



歌声と『絆』の文字の光が、幻想的な空間をつくり上げました。

避難訓練実施

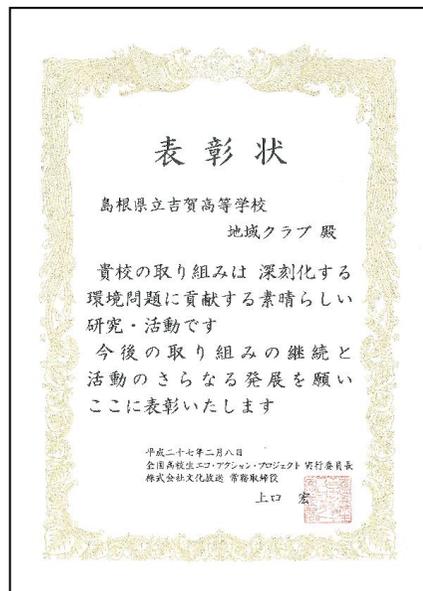


2月27日に避難訓練を実施しました。学校では年間3回の訓練が実施されますが、今回は地震を想定した訓練でした。

【写真左】「地震発生の放送」の後、机の下で安全を確保する訓練の様子。訓練に先立って、地震時の対応についての指導も行われています。
【写真右】ペランダから避難場所の校庭に出る様子。全員が真剣な様子で避難場所に向かいました。

第5回高校生環境活動発表会優秀賞

地域クラブの活動のうち、ヒメバイカモの観察や田んぼの生き物調査などの環境に関する活動が認められ、全国高校生エコ・アクションプロジェクト実行委員会という団体から表彰を受けました。この賞に関連して、3月25日に東京で実施される「ESDユース全国大会」というシンポジウムに参加します。参加者は、2年生の小田萌子さんと石田梨紗さんです。北は北海道から南は熊本まで、全国から選ばれた高校の代表者が集い、環境についての議論を行います。本校から出席する2名には、有意義な研修を積み、情報を学校に持ち帰り広めてもらう役割があります。是非、多くの事を吸収してもらいたいと思います。



花いっぱい活動



3月11日に『花いっぱい活動』を実施しました。地域に貢献するための一つの手段としてこの活動を展開していますが、今回の活動は昨年11月の吉賀中学校の生徒との活動に続いての第2弾です。本校の村上大建君・大力海里君・部村友哉君・尾崎宗一郎君・桑原太一君が七日市小学校に伺い、一緒にプランターに花を植えました。この花は小学校周辺にあります。お立ち寄りの際には是非見てみてください。因みに、第3弾を3月下旬に、七光保育所で予定しています。

保育実習（1年生）

3月6日に、吉賀高校1年生が七光保育所で保育実習を行いました。小さな子ども達相手に奮闘しましたが、生徒は皆子ども達とのふれあいをしっかり楽しんだ様子でした。ご協力いただいた七光保育所の皆様ありがとうございました。



離任のご挨拶

上原万喜子：「再起 2015」と掲げたお正月。やり残したことが大きく、後ろ髪引かれる想いで去ることになりました。一年生とはこれから授業が始まり、関わる機会が増えていく。二年生とは、最近だいぶ打ち解けてきて、来年度はもっと信頼関係が深まるはずと思っていたのでとても残念です。そして、女子バレー部が復活するというこの時に、チーム作りができないことが本当に無念で、申し訳なく思います。この悔しさをバネに次の学校で一層の努力を積んでいきたいと思います。遠く松江の地で、皆さんの健康と活躍を心より願っています。三年間ありがとうございました。

又賀智和：とても有意義な一年間を過ごすことができました。高校内での活動はもとより、中高一貫教育の活動として、小学生向けの科学教室等の高校生以外との関わりも、私にとって貴重な経験となりました。教員として多くの学ぶべきことや自分自身の課題を発見できました。今後も、吉賀高校で得た経験が活かされるように努力を続けたいと思います。短い期間ではありましたが、多くの皆様にご協力を頂いた事を心から感謝申し上げます。

水元達史：これまで3年間、お世話になりました。あまりお役に立てませんでした…。

立田文江：この度高齢のため退職する事になりました。十六年間大過なく務めさせて頂きありがとうございました。吉賀高等学校は地域にはなくてはならない教育の場です。教養は一生の宝です。生徒の皆さん、勉強にスポーツに頑張ってください。そして、思いやり等の人に対する心遣いを大切にしてください。

編集後記～『めたせこいあ』ってなに？～

タイトルとなっている『めたせこいあ』は吉賀高校の裏にある木の名前です(右の写真)。メタセコイアという種の木は、日本ではアケボノスギ(曙杉)という和名もありますが、実は「生きている化石」として有名な木でもあります。日本では300万年前から100万年前頃までたくさん生えていたようで、そのころからあまり進化していないということが「生きた化石」と呼ばれる所以のようです。そんな木が吉賀高校のシンボルとなるくらいの大木に成長しています。吉賀高校の活動を地域の皆様にお知らせするのがこの『めたせこいあ』の役割です。ありがたいことに、多くの方に読んで頂いたようで、様々な形で地域の皆様からの『めたせこいあ』についてのご意見を伺いました。これからも吉賀高校と地域を結ぶための手段として『めたせこいあ』を発行します。ご意見等がございましたら遠慮なく学校までお問い合わせ下さい。



中高一貫教育だより -吉賀地域中高一貫教育事務局(島根県立吉賀高等学校内)-

この1年の活動を振り返って

5月の第1回合同職員会議でスタートした中高一貫教育も、年度の終わりを迎えました。その間、各教科の授業交流、一日体験、よしか塾、よしか祭、合同ロードレース、合同柔道等たくさんの活動をおこなうことができました。学校・地域・保護者の皆様のご協力に心から感謝します。2月26日には2回目の合同職員会議をおこない各部会ごとに振り返りをしました。どの部会も「この活動はねらいの達成に有効だろうか」というテーマで真剣な議論がなされました。

また、選抜方法にも大きな改善が加えられ、特別選抜による合格内定は募集定員(40名)の50%程度となり、内定が出なかった生徒は一般受検で入学を目指すことになりました。これにより中学生の学習意識も一層高まっています。

次年度の中高一貫教育はさらに新しい一歩を踏み出します。学校、地域、保護者すべての方々の方々の力で中高一貫教育を育てていきましょう。



第2回合同職員会議であいさつする石井教育長